

令和 6 年度 第 1 回養老町地域消費活性デジタル化推進委員会議事録

日 時：令和 7 年 3 月 25 日（水） 15 時～

場 所：養老町役場 4 階大会議室

【事務局】

皆様、こんにちは。

定刻より若干早いですが、本日、会議にご参加の皆様お揃いでございますので、始めさせていただきますと思います。

本日は、ご多用中にも関わらず、養老町地域消費活性デジタル化推進委員会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。よろしくお願いいたします。

では、着座にて失礼いたします。

昨年度より設立しました「養老町地域消費活性デジタル化推進委員会」では、「養老 Pay」に係る事業の取り組みについて、ご審議させていただくこととさせていただいております。

本委員会に委員選任については、養老町地方創生推進委員会の皆様に、本委員会委員の就任を依頼させていただきました。皆様には、委員に就任いただくことを承諾していただき、誠にありがとうございます。

また、本委員会は、養老町地域消費活性デジタル化推進委員会設置要綱に基づき実施させていただきます。要綱の内容については、お手元に配布の資料のとおりとなりますので、ご説明は省略させていただきますと思います。

はじめに、養老町地域消費活性デジタル化推進委員の辞令がございます。本来でしたら、お一人おひとり辞令をお渡しするのが本意ではございますが、お時間の都合上、お手元に配布させていただいております。何卒、ご了承ください。

また、本日は、「養老 Pay」を活用した「Smart Town YORO Project」にて業務を受託いただきました事業者の方にも出席いただいておりますので、ご紹介させていただきます。

－事業者の紹介－

それでは、委員会に入らせていただきます。

本日は、22 名の委員様のうち 19 名の委員様にご出席をいただいております。養老町地域消費活性デジタル化推進委員会設置要綱第 5 条第 2 項に、“委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない”と規定されていることから、本日の会議は成立しましたことをご報告させていただきます。

それでは、ただいまから令和 6 年度 第 1 回養老町地域消費活性デジタル化推進委員会を開催させていただきます。

なお、議事録作成のため、本日の委員会は録音させていただきますのでご承知おきください。

はじめに養老町長より挨拶を申し上げます。

【町長】

改めまして、皆様、こんにちは。昼の計画審議会・地方創生推進委員会の後の会議ということで、本当にお世話になっております。また日々の行政活動におきまして、それぞれの分野でご尽力いただいております。ありがとうございます。

養老町の DX 計画を策定しておるわけですが、その一つでありいろんな形で「Smart Town YORO Project」の効果を検証したり、実績報告を行ったりいろんな形でご意見を頂戴したいということで、会を昨年より設けております。

今年は、昨年の 11 月 3 日に町制施行 70 周年ということで、いろいろな形でご尽力をいただいております。本当にありがとうございます。

少子高齢化、人口減少の中でどのようなことを町づくりに取り込んでいくかと、いろんな課題がございますけれども、その課題解決に向けた取り組みの一つがこの事業でございます。令和 3 年度より養老町独自の地域通貨アプリでございます、「養老 Pay」の運用を開始いたしました。これには、委員様にも大変お世話になって、プレミアム商品券の取り組みを行いながら、その後の見守り機能、スタンプラリー機能など様々な機能を追加して進化を続けております。

令和 5 年度からは、「Smart Town YORO Project」として、デジタル技術を活用した地域経済の活性化に向けた取り組みを推進しているところでございます。

町内店舗の方々には、ご理解をいただきながら協力をしていただいておりますが、もう一つやはり若い方からも、コンビニも使えるようになるといいねというような意見をいただいておりますので、その辺りも、少し拡充するといいいのですが、なかなかハードルが高いという風には事務方から承っております。

そういった中で、養老 Pay を活用しまして今年も少しご無理を言いますけれども、プレミアム商品券事業の実施、デジタルスタンプラリー、「養老 Pay」でのオンデマンドバスシステムとの連携など、様々な事業の展開をしております。

さらには、養老鉄道に関しましては、3 月議会の補正でまた 1 億 7 千万の補正を付けていただきまして、トータルで年間 2 億 1 千万弱の負担金を支出しておりますけれども、昨日も、令和 6 年度の養老線地域公共交通再生協議会というのがございまして、大垣市長、副市長をはじめ沿線市町の部長を呼びまして、今後どうしていくかというような議論をさせてもらっておりますけれども、やはり揖斐川町などからすると名鉄の沿線がなくなったことによってかなり人口が流出したと聞いております。我々もそういったところを見ておりますので、やはりローカル鉄道はどうしても守らなければならない町民の柱だという風に認識しております。

また、本年度は新たな取り組みとしまして、町独自の健康アプリ「YORO 健康通帳」では養老郡医師会の方にも協力いただいておりますけれども、健康増進イベントを実施するなど、ヘルスケア部門の取り組みにも着手をしております。

今後も引き続き、これまで構築しました様々な養老 Pay の機能を活用しながら、利用促進に取り組んでまいりたいと考えております。

本委員会につきましてはその取り組みの評価、検証、審議していただく場として設置しております。本日は、まずは委員長、副委員長を選んでいただきまして、その後、実績報告、7 年度以降の取り組みを行いたいという風に思いますので、最後までよろしくお願いしたいと思います。

また、4 月 23 日から 6 月 15 日まで岐阜県では第 42 回全国都市公園緑化ぎふフェアが開催され県内 6 公園プラス飛騨会場ということで、7 会場でイベントが行われます。養老公園でも様々なイベントを行いますので、ぜひ地域の方々こそぞって参加していただきまして、この行事も県の主催でございますけれども、盛り上げていただきたいと思います。

最後まで、長時間にわたりますけれども、ご審議いただくことお願い申し上げまして、簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

最後までよろしくお願いいたします。

—町長退席—

【事務局】

ありがとうございました。なお、町長は、公務の都合により、ここで退席をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議では「令和6年度「養老P a y」を活用した「Smart Town YORO Project」について」ご審議をいただきます。忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますので、皆様よろしくお願いいたします。

それでは、本日の資料のご確認をお願いいたします。

本日お配りしておりますのは、会議次第と委員会の設置要綱でございます。また、事前に令和6年度「養老P a y」を活用した「Smart Town YORO Project」実績報告についてというカラー刷りの資料を配布させていただいております。お手元にお揃いでしょうか。不足等ございましたら、挙手にてお知らせいただきたいと思います。よろしかったでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは協議事項に入らせていただく前に、昨年度の委員会内容についてご報告をさせていただきます。

令和5年度養老町地域消費活性デジタル化推進委員会では、令和5年度の取り組み内容と令和6年度の事業内容につきましてご承認をいただきました。

その中で令和6年度は、「養老P a y」にて構築しました地域ポイント機能やスタンプラリー機能、健康アプリ「YORO 健康通帳」などを最大限に活用し、「養老Pay」を推進。

短期の取り組みといたしまして、既存、新規の集客機会を活用し、インセンティブのプル型事業を実施。

また、中長期の取り組みとして、定常利用レベルでのサービス実装とデータ活用による新たな事業機会創出と付加価値化を目指すという事業の方向性で承認をいただきました。

昨年度の委員会内容を踏まえて、ご審議をよろしくお願いいたします。

協議事項（1）

【事務局】

はじめに、協議事項（1）、委員長及び副委員長の選任をお願いしたいと思います。養老町地域消費活性デジタル化推進委員会設置要綱第4条の規定により、委員会に委員長及び副委員長を各1人置くことになっております。それでは、この委員会の委員長について、どのような方法で決めさせていただいたらよろしいかお諮りします。

【委員】

事務局一任

【事務局】

はい、ありがとうございます。ただいま、事務局案があればとのご発言がありましたので、事務局より提案をさせていただきたいと思います。

本委員会の委員長につきましては、養老町地方創生推進委員会にて委員長のご経験があります、岐阜大学の先生が良いかと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

異議なし

【事務局】

はい、ありがとうございます。ただいま、異議なしとのご発言をいただきましたが、その他ご意見はございませんか。

【委員】

なし

【事務局】

はい。それでは、ご意見もないようですので、委員長は岐阜大学の先生にお願いしたいと存じます。

委員長様、お手数ですが資料をお持ちいただきまして、前の委員長席へお移りいただきたいと存じます。それではここで、委員長より一言ご挨拶をいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

【委員長】

先ほど、計画審議会、地方創生推進委員会、引き続きまして、皆様と共に活発な議論をしていきたいと思っておりますので、何卒ご協力、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、副委員長について、どのような方法で選出させていただいたらよいかお諮りします。

【委員】

委員長の指名が良いかと思えます。

【事務局】

ありがとうございます。ただいま、委員長指名というご発言がありましたが、どなたかその他のご意見はございませんでしょうか。

【委員】

異議なし

【事務局】

はい、ありがとうございます。異議なしとの発言でしたので、それでは、副委員長については委員長の指名にて決定することとさせていただきます。委員長様、どなたか指名をお願いいたします。

【委員長】

それでは、大変僭越ながら御指名させていただきます。養老町区長連絡協議会会長様にお願いをしたいと思いますが、いかかでしょうか。

【事務局】

只今、委員長様より副委員長が指名されました。副委員長就任につきまして、賛成の方は挙手をお願いいたします。

はい、ありがとうございます。

挙手全員ですので、副委員長様、お手数ですが資料をお持ちいただいて、前の副委員長席へお移りいただきたいと存じます。

はい。ここで、副委員長より一言ご挨拶をいただきたいと存じます。副委員長様、よろしくをお願いいたします。

【副委員長】

失礼いたします。只今、委員長様より指名いただきまして、今回の副委員長を務めることになりました、養老町区長連絡協議会会長でございます。

先ほどからお話にございましたように、これから進めていく議事をどうしていくかというのが我々任務だと思っております。

皆さんと一緒に考えながらこのまま続けていきたいと思っておりますので、そこも十分にお願ひいたしまして、簡単でございますけど挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、ここからの進行は、委員長様にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

協議事項（２）

【委員長】

はい。改めましてよろしくお願いいたします。それでは、皆様の協力のもと、活発な意見交換の場、ご質問等もご遠慮していただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

はい。それでは、次第に沿って進めていきます。

協議事項（２）、「令和６年度「養老 Pay」を活用した「Smart Town YORO Project」 実績報告について」ご説明をお願いいたします。

【事務局】

（資料１に沿って説明）

【委員長】

はい、ご説明ありがとうございました。只今、令和６年度の実績報告につきまして何か質問がございましたら挙手等お願いいたします。

【委員】

「養老 Pay」。私のスマホにも入っているのですが、データの中ではあまり医療が進んでい

ないのではないかと考えております。いろいろとデジタル化の推進の、この田舎の町でも進んでいくこと、すごく面白いなという風に思っているのですけれども、お話の中にもあったように、やっぱりその世代を想定してとか、その世代がどういう行動、生活をしているかというところに沿って利用の仕方を考えないと、登録してもらうことにすごく頑張っていると思うのですが、アプリ入れたものを使わないという現象がずっと起きていくのではないかとと思うので、使うことでもっと楽しいとか、使ったら、さらに使いたくなるみたいな施策をした方がいいのではないかとという風に思っていました。

何々ペイというものは私のスマホの中にもいくつか入っているのですが、やっぱりこう使うたびにポイントが入るか、だから使っちゃみたいなのところがあったりとか、そのペイが持っている面白さみたいなところも含めてその機能を追加したりとか、大変難しいとは思いますが、そういうところを考えていただけるといいのかなという風に思いました。

加えて、「YORO 健康通帳」も連動しているとお伺いしたのですが、これ、実際導入している方の年代ってどの辺りの方が、やっぱりこうお年寄りの方が多いいのではないかと、特にどういいう方が利用しているという数字がなかったもので、どんな方が実際に使っているのかなというものがちょっと気になります。

で、この1個前の地方創生推進委員会の中でもした話であって、子供たちが今運動をしなくなっていると。コロナもあって体を動かすことが減っているとか、運動量が落ちているというお話があると思うのですが、健康が大事なもので、ご高齢者だけではなくて、これからを担う世代で結構大きな課題になっていますね。国の方でも、人生100年時代なので、健康寿命を延ばしましょうっていうことも、大きく言われているので、働く30,40,50代の運動量が実はすごく少なく、これがそのまま高齢者になっていった20,30年後のちょっと日本大丈夫だろうかという話もあったりするので、その辺りの年齢層も取り入れやすいような、せっかくアプリとかを使いこなす世代なので、その辺が導入しやすいとか、使いやすいとか知るきっかけみたいなことがあると、もっと活用してもらえるのかなという風に思いました。

あと、これからやっていきたい事みたいな中に、観光で使うみたいなことが入っていなかったのですが、これはもう思いっきり町民が活用する様にというところに振り切ってやっていこうとしているよっていうことなのか、それが1番ではあるけれども、観光の方でも活用していこうとは思っているのか。

地域 Pay って結構観光に活用されることが多い。高山であったりとか渋谷であったりとかね。地域 Pay を含めて、観光に来たらこれを使って回ってほしいみたいなものがあったりするので、観光とも結びつけて使えるのではないかなという風に。

せっかく養老公園がありますので、養老公園を土日に歩いていると海外の方々がいっぱい滞在していたりします。そうすると外国語対応にしなければいけないのではないかとということはあると思います。

あとやはり、海外へ行く人が今は減っていて国内旅行が流行っていますね。海外旅行は費用がすごく高いので。マイクロツーリズムもコロナのきっかけですごく流行っているので、観光を頑張るっていうところに、「養老 Pay」とかスタンプラリーがいいとかっていうのを、うまく絡めていけるといいのではないかと思います。

もう一つだけ、「養老 Pay」への加盟店が増えているということで、全部をチェックしていないので、どんなお店があるのかというのは、また少し楽しみに見ようと思っているのですが、確か各加盟店が独自にクーポンを発行できたと思うのですが、私が見たときはほとんどクーポンが発行されていなくて、なので、せっかくこう加盟して下さった店舗さんにもそれぞれ頑張ってくださいとまたこう伝えていただいて、みんなで盛り上げようねっていうことを、いろんな側面から醸成じゃないですけど、していけるといいのではないかと思います。

クーポンも、住宅リフォームに500円クーポンとかあってもだれが使うのだろうと思ってしまうので、やはりこういう Pay アプリが使いやすいお店が増えてほしいなと思いますし、加盟店が増えてほしいなとか飲食店が増えてほしいなというところがあるので、そういうことで

いろんなことが絡まってこそ「養老 Pay」だと思いますので、総合的にいろいろなことを考えていければいいのではないかと思います。意見というか質問は以上になります。

【委員長】

様々な視点からのご質問ご指摘ありがとうございます。

では、一つ一つになろうかと思いますが、ご回答の方よろしく願いいたします。

【事務局】

はい、ありがとうございます。それではまず、一番初めにお話しいただきました世代に沿って使ってもらえるようなアプリにした方がいいという部分に関しましては、まさしくお話いただいた通り今後も進めていきたいなというところでございます。

まず、今年度につきましては、子育て世代へのアプローチと、あとはオンデマンドバスの利用者へのアプローチということで、そういったところを絡めたキャンペーンを実施していたというところになります。ですので、今後も、そういった世代に合わせたキャンペーンなどを検討してまいりたいなという風に考えております。

続きまして、「YORO 健康通帳」の世代についてですけれども、まず、Fitbit の貸し出しをして事業に参加いただいた方というのが、養老町保健センターの方で 80 名、船戸クリニック様の方で 25 名の方が事業に参加いただきました。こちらは、30～70 代の方が参加いただいております。また、この Fitbit の貸し出しは今後も継続していく予定をしておりますので、さらにこの利用を促進していけたらという風に考えております。

また、アプリが導入しやすいようにというところで、まさにこちらはご指摘いただいた通り、「YORO 健康通帳」がこの令和 6 年の 3 月からアプリが開始して、まだまだ利用者が少ない状況でございます。ただ、この健康寿命の延伸というところは、まさにこのアプリを活用して、また、Fitbit を活用して取り組んでいきたいという風に考えておりますので、このデジタル分野への取り掛かりというところがまずハードルが高いかないというところはあるので、そこを少しでも崩せるように丁寧な説明をしていけたらなということで、キャンペーンなどを通じて一人でも多くの方に参加いただけるようにということで進めていきたいと考えております。

続きまして、「養老 Pay」アプリの観光面での利用についてというところで、お話しの中でもありましたスタンプラリーと観光の連携というところもお話しいただきましたが、まさにそのような活用をしていきたいなという風に考えております。まず、この「養老 Pay」の目的につきまして、地域内消費活性化というところにありますので、地域外からの消費をもっともっと増やしていきたいというところが大きな目標としてございます。ですので、もちろん町外から、県外からの観光客に向けたこういったスタンプラリー機能を活用したキャンペーンなども実施していけたらなという風に思っております。

最後に、加盟店についてです。加盟店のクーポン発行機能についてご指摘いただきました通り、まだまだ利用が伸びていないというのが現状です。こちらについては、せっかくある機能ですので、お店の方独自でいろいろなクーポンが発行できる、また、クーポンだけではなくてお店の情報もお店側から独自に発信できるシステムが「養老 Pay」としてございますので、そちらの機能をまた再度店舗様の皆様に周知をして、利用促進、利用者を獲得できるような魅力あるものを発信していけるように周知してまいります。ありがとうございました。

【委員長】

ご説明ありがとうございます。その他ご質問等ございますでしょうか。

【委員】

先ほどの会議でも少しお話ししたのですが、ここに数字が出ていましたね。養老町の人口

は全国で最も減少数の多い町村であると、驚くべき数字ですよ。もっとも人口減少数の多い町村ということで、少し恥ずかしいと思います。先ほども少し言いましたが、人口が増えることはないと思います。それで、立ち上げからいろいろやっていますが、勝てない。大都会には頭脳と資本力では。端的に言いますと、我が養老町、1200 ぐらいの事業者数はありますが、600 ぐらいしか商工会員に入っていない。今回も加盟店を増やしてほしいということはあるのですが色々な問題がある。これは役場の方にも言っているのですが、1 番は手数料 3% だということです。私、今ガソリンスタンドをやっているのですが、3% となると 170 円だと 5 円くらいになる。これだけ取られると商売にならない。それと決済手段が今、すごく変わっています。我々も全国規模でやっていますが、それを整備するためには開発から販売など決済システムを自社でやるのはすごくお金がかかる。でかいところを使った方が早い。手数料について、今 3% とられています。国の補助金があるうちはいいけども、なしにされたらどうなるか。これを交渉して、せめて先ほども言いましたが、0.5%、それぐらいの減があれば、10 兆円とか 13 兆円の力があれば、それはカードでの決済ができると思います。せめて 2.5% にしてもらえると助かるなと思います。

もう 1 つ言いたかったのは、養老町は割と小売店が頑張ってますね、他の市の方に聞いてみると、我が町の特色があって、肉屋さんが多い、焼肉屋さんが多い。ここでかなり使ってくれている。私、決済やってもよくわかりますが、西濃ブロックの中でもやはり養老町だけなぜこんなにも売り上げが多いかっていうとやはり、焼肉屋さん、精肉店ですよ。スーパーにも流れてはいるけれども、圧倒的にその 2 つです。地域の経済を活性化するためには、町内のお客さん、県内のお客さん呼び込んで、我々は先ほど言ったように人口の減少が圧倒的ということで今後もやっていくのには課題になると思いますし、我々としてはやっぱり協力していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。以上です。

【委員長】

ご質問、ご指摘ありがとうございます。では、只今のご質問、ご指摘に対してよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日は皆様お集まりいただきましてありがとうございます。

只今、いただきました要望につきましては、かねてより伺っておりまして、決済手数料につきましては、今実際、町と商工会様の方で持っておりますので、実際には小売店さんの方には手数料っていうのは発生していないのですが、そういう意味で、まずは普及をかけたいというのが 1 番にあります。

ただ、その手数料が、今のおっしゃる 3% がいいのか 2.5% なのかっていうのは、今後また十分に協議をさせていただいて、事業者の方ともそういったところはセッションかと思うので、そこは進めていきたいと思います。

ただ、私も今はまず店舗数を増やしたいという思いですので、そこは皆さんと同じ思いだと思いますので、何とかそのところを耐えてですね、どんどん小売店の方に加盟していただくようなところをまずはやっていきたいと思いますので、そういったところでご理解いただきたいという風に思います。

【委員長】

ありがとうございます。すいません。少し嫌な質問かもしれませんが、当分は手数料を取る仕組み事業を進めていく、そうしないとやはり継続的に事業が進まないの、やはり手数料はいずれであってもご負担を前提に進めていく方針、方向性でよろしいのかどうか。

【事務局】

一応、こちらについては商工会さんと十分協議をして進めていきたいなという風に考えて

います。ただ、事業の持続化っていうところも検討していかなければならないタイミングも近づいてきているのかなと感じております。

【委員長】

ただ、おっしゃる通り、持続的になり、長時間にわたってこれを進めていかないと効果もやはり生まれにくいかと思いますので、その地元の事業者の方々のご理解と、あとは町民の方々のご理解あってこそその手数料のお願いということになるかと思いますが、その点はやはり地元の方々との協議が重要になればと思いました。

時間も迫っておりますので、もう一方ぐらいご質問ありますでしょうか。

【委員】

プレミアム商品券の返金率って今 20%だと思うのですが、いつまで続けられそうですか。

【事務局】

この事業につきましては、過去令和 3 年度から毎年今のところ継続しております。これはですね、商工会様からのご要望もいただきながら進めている事業でございますので、当然住民の方からも強い実施の要望だとか言ったお声だとかも聞いておりますので、これについてはその情勢だとかですね、そういったものにも関わってくるものですので、毎年できるかっていうその確約はできないと思います。

ただ、事業としてこれだけの効果が得られているというのは、これは数的に現れておりますので、先ほどのこの資料の中にもございましたように、これまで累計で 4 億程度出ております。それに対して 20%、ちょっと多い時には 25%かなと思うのですが、そういったことで消費に対しての動きが非常に顕著に現れているということですので、これは実際に経済活動として大きな効果があるということですので、そういったところも含めながら継続していくということについても考えていくことが必要だと思っています。

ただ、これがずっとやれるのかっていう話については、ちょっとここでは確約できませんけども、地域のご要望だとか商工会様からのご要望だとかも含めて実施していければなという風に思っております。

【委員】

少し関係があるかと思うのですが、今年万博が開催されますよね、大阪で。

実は、20 年前の方がアメリカから日本に来る。そして、オーバーツーリズムですごくホテルが高くなってですね、民泊で養老町も 3 万円くらいでやっていました。

それで、商工会で、そういう支援ではないですけども。チャンスは来ていると思うので、どのように、先ほど言われたみたいに、観光と結び付けて消費を促すことができるか、これ一棟貸しなのでここで消費するわけで、3 日や 4 日滞在するものでそういうのを取り込む方法もやっぱり考えて、そういう人たちに何かプレミアムを付けて地元で消費してもらおうとか、やっぱりそういう時代になっていると思う。

いずれにしても、オーバーツーリズムはどうしようもないものなので、田舎に来るチャンスが来ている。養老鉄道もあるし、高速道路もあるし、観光地もある。ういったところを結び付けられれば、我が町もまだすごくポテンシャルがあるので、ぜひとも協力してやってもらいたいです。よろしくお願いいたします。

【委員長】

ご意見ありがとうございました。今のご意見に対する回答をお願いいたします。万博との絡みも、何かもしございましたら。

【事務局】

今の意見でございますが、実際その空き家を活用して民泊施設というような形で事業を展開したのは令和4年に「YOROffice」と連携した形でそういった空き家を改修して民泊施設にするというのを町の方でも事業として行っております。それが3件あるというお話の中の2件がその事業でやったものでございます。実際に回転率というか、そういうところを見てみますと、非常に高いものがあって、利益も出ているという風に聞いております。今後もそういったところの活用ですね、空き家の活用も含めて進めていきたいという風に思っております。それが、インバウンドの需要に繋がるということになると非常にいいかなという風に思っておりますので、それは継続してやっていきたいと思っております。それと、観光のお話でございますが、これ実はこの養老公園の中のスタンプラリー機能を使って、養老公園にお越しいただいた方にスタンプラリーで各所を回っていただくような事業も実際にやっております。ただ、少し認知度不足というかPR不足ということもありまして、なかなか利用者が伸びていないというか、数的に現れていないように見えてはおりますけれども、そういったところは観光協会さんとも連携しながら進めておりますので、その事業については継続してやっていきたいと思っております。私共、常々皆様からお叱りをいただくのですが、やはりPRが大変下手くそでございます、一応やってはおります。ただ、その周知がなかなか行き届かないということで、そういったところも皆様のお力をいただきながらですね、広めていただけるとありがたいかなという風に思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

1点だけ、先ほどですね、健康寿命の延伸にすごくとっつきやすいという方については、その高齢の方だとか、少し今状態が芳しくなくてこれからが少し心配だという方がそういった取り組みをされるということで、実際に、今回この事業を進めたときに、まさにそのことが課題でした。要するに、今、健康にあまり気を使わない年代の人というのが、じゃあその健康活動に取り組んでくれるかという、いくら今後こういった状況になりますよと話しても、なかなかそこで健康活動に取り組んでいただけない。何をどうすれば行動に移っていただけるかという取り組みが非常に難しいなというのが実際にわかったところです。

ただ、この活動自体は、決してお年寄りの方のためであるとか、これからちょっと健康に気にしていくのではないかなというような状態の人だけがやるものではないという風に、最初からコンセプトは持ってやっておりますので、ひいては、これは、養老町内の医療費の適正化という部分が目標でございますので、この「YORO健康通帳」をより広めてですね、若い世代の中にも、この先10年・20年後が健康であり続けられるようにというような取り組みをどんどん続けていきたいということで、今後については、岐阜大学さんであったり、医療機関さんだとかそういったところからも助言をいただきながら広くたくさんの方にそういう健康に対する意識の向上というものを持っていただくように、繋げていきたいという風に思っておりますので、そこだけは補足として説明させていただきました。

【委員長】

個人的な健康に関する意見ですけれども、やはり自治体、市町村が町民に、町民の方々の健康について投資はあると思いますが、やはりそこは個人の健康そのもので完結してしまうという認識が少し強いということが1つ課題であるかと個人的には思います。個人の健康のためだけではなくて、個人が健康になること自体が地域に貢献するであるとか、地域の未来に貢献することになるという認識をどんどん意識づけしていくことが非常に重要で、自分の健康のためだけではなくてというところが、要するに地域貢献のためであるというところをポイントに押していくと、じゃあ地域のためにという気持ちで健康アプリとかっていうのが広がるのではないかなという気持ちはします、もしかしたらそこが1つポイントになるのではないかと思います。多くの人は今、健康だからいいよねという風に終わってしまう。そうではなくてという部分を役場の方々から健康でいてくださいという、これをどう伝えていくかはとても難しいでしょうが大事なポイントになるのではないかと思います。よろしくお願いたします。

実績報告のところで、たくさんのご指摘、ご質問いただきましてありがとうございます。では次の協議事項に移りたいと思います。協議事項(3)の「Smart Town YORO Project」の今後の取り組みにつきまして、ご説明をよろしくお願いいたします。

協議事項(3)

【事務局】

(資料2に沿って説明)

【委員長】

ご説明ありがとうございました。では、只今のこの取り組みにつきまして、ご質問等ございましたら挙手をお願いいたします。

【委員】

先ほど令和6年度までのやってきたことと、それから、実際僕ら、年配者、これはまず利用促進のところにありますけど、割引の問題も含めてですが、今店に寄って年取った人がなにを考えているかと言いますと、やはり男性でも今買い物に行きます。例えば土曜日はこういうところは安いとかをやっています。そういったセールのようなことをやっています。それと同時にポイントです。ポイント還元をどんどんやっています。ポイントをやっているとなるとそれにプラスしてあるお店では全商品のうち衣類はポイントを20%増やしますとかそういったことをやっているわけです。そうすると先ほどから言われるように、この目的ですね。年配者と若者の利用を促進させようということですが、このアプリを増やしていくときにどういう年代層はというのを明確にする必要があると思います。

先ほどの意見にもあったけれども、実際僕らはどこで養老Payが使えるだとか知らない。興味のない人はどこで「養老Pay」が使えるということがうまく認知されていないと思います。

加えて、養老町はPRが弱い部分があると思います。様々な観光地でもPRを行っていますが、犬山はすごく上手にPRをしている印象があります。何を求められているかを理解し、反映させるやり方が徹底されていると思います。

オンデマンドバスについても、実際お年寄りの方々は、買い物に行き、その買った荷物を持って帰ることができるのが心配になると思います。

YORO健康通帳に関しては、養老町では健康アプリを活用したことで他の自治体とどれほど違いがあるのかということがわかると、もっと広まっていくのではないかと思います。そういった養老町の良いところを伝えて、人口流出を防ぐ必要があると感じました。

【委員長】

大変貴重な御意見ありがとうございます。只今の意見に対して何かコメントがありましたらよろしくお願いいたします。

【事務局】

激励の言葉をいただきまして、ありがとうございます。今いただきました、ご意見を十分取り入れていけるよう進めていきたいと思っています。

先ほども、申し上げましたが宣伝が下手だと改めて、おっしゃっていただきまして、やはりそうなんだと再確認いたしました。そういった宣伝の部分に関しましては、皆様のご意見や民間企業の様々知恵や経験を吸収していければと思いますので、今後とも様々なご意見をいただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

【委員長】

ご回答ありがとうございます。ちなみに、PRの下手さをあえて言っておきながら、実はやはり限界がありまして、公的な機関で行っていい範囲とダメな範囲と、あとは地域の方々の感情を含めた過度なPRであったりとか考慮をするとPR不足のような印象を受けてしまうので、やはりそこは行政機関には限界があることをご理解いただけると幸いです。一般の会社のように、派手に打ち出すとかなかなか難しいと思います。派手に打ち出すと、なににお金を使っているのだという指摘もあると思います。ですので、限界があることを理解しつつ、地域の方々のつながりで情報共有をして盛り上げていただけるとどんどん広まっていくのではないかと思います。

【委員】

行政でも犬山とかは、上手だと思います。お城や桜をうまく使い海外の観光客を上手に誘致していると思います。

【委員長】

犬山に関しては、おそらく名鉄が頑張っているのだと思います。名鉄が犬山市と協力をしているかどうかはわかりませんが、名鉄のお客さんを増やすという目的で犬山をPRしていると思うので、養老町とは少し状況が違っているのではないだろうかと思います。お時間となりましたので、只今ご説明いただいた内容と質疑としていただきました内容、今後の取り組みにつきまして、皆様の承認をいただきたいと思います。

私からは一点、これまでの議論の中で観光というキーワードが多く出ましたので、今後の取り組みの中に見えるようにお示しいただけるとより良くなるのではないかと思います。そういったキーワードを入れつつ、今後の取り組み、ご提示いただいた内容で進めてよろしいかということをご承認していただければと思いますが、この内容で賛成いただける方は挙手をお願いいたします。

－全員挙手－

恐れ入ります。ありがとうございます。皆様ご賛同いただいたということで、この内容で承認されたということになります。

只今様々なご意見をいただきましたので、そういったご意見を踏まえて取り組んでいただければと思います。では、協議事項3については以上にしたいと思います。

事務局や、ご出席いただいている皆様から何かありますでしょうか。

では、長時間にわたり活発なご意見、コメントいただきましてありがとうございます。それでは、わたくしの進行は以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【事務局】

委員長様、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、長時間にわたり大変お疲れ様でした。以上をもちまして令和6年度第1回養老町地域消費活性デジタル化推進委員会を閉会いたします。

本日は大変お疲れ様でございました。